

# 東京都東村山本町プロジェクトにおける「木の香る家」事業

【応募者】 氏名：藤本 昌也 勤務先名：株式会社 現代計画研究所 勤務先住所：東京都練馬区豊玉6-4-4-201  
 連絡先：TEL(03)3994-8601 FAX(03)3994-8603 Email:kaku@gkk-tokyo.com

【応募理由】

○ 2段階供給による「山と街をつなぐ木の家づくり」生産システムの構築  
 全国新設住宅着工戸数の約25%を占める首都圏において、人気は高いが、熟練職人の減少や作業場を持たない工務店の増加により供給が難しい伝統的な構法を用いた木造住宅を、山村(岩手県遠野市)と都市(東京都東村山市)を結ぶ合理的生産システム「木の香る家」として実現し、25棟の供給で最高倍率28倍・平均倍率6倍という高い評価を得た。  
 木材生産地と都市型工務店、それぞれの特性を生かし、双方の付加価値を高める協働の仕組みを構築することにより、伝統構法の木造住宅供給の可能性を拡げると共に、産地及び消費地の地域産業を活性化し環境的にもサステナブルな住宅生産システムのあり方を提示した。

【作品または活動の概要】

- ① ■木の香る家グループ  
 設計者：(株)現代計画研究所  
 施工者：(株)匠技建、長崎工務店(株)、(有)加賀美工務店  
 木材加工：(株)リンデンバウム遠野  
 ■事業主体(建築主)：東京工務店

② 計画概要 別添1参照

【作品または活動の特色】

1. 国産木材・自然素材中心の仕様：外部/屋根-陶器瓦葺き、外壁大壁：下部雨掛かりはガルバリウム整形板(定尺)、上部は漆喰塗り、国産木材製デッキ・バルコニー  
 内部/内壁：構造材(杉材)現し真壁構造、珪藻土塗り(一部、珪藻土クロス貼り)、天井：杉野地板現し、床：唐松厚板、その他仕上げ材・造作材・作り付家具(下駄箱、手洗い台、カウンター等)は全て無垢国産木材を加工。
2. 木造スケルトン構法：伝統的な仕口・継手による骨太な木造軸組工法を基本として、仕口の統一化・部品化・パネル化などの合理的な生産システムを取り入れることにより、可変性の高い長寿命住宅をリーズナブルな価格で実現。
3. 伝統技術の継承：首都圏では、大工ですら伝統的な構法に携われる機会は希な中、本現場を担当した30代前半の大工棟梁への伝統技術の継承を意図した。墨付加工を行った遠野も、伝統的な構法を習得した大工は高齢化しており、そこでの技術継承も意図した。
4. 遠野地域材の活用：木材はサステナブルな唯一の国産資源である。しかし首都圏では、地域材だけで住宅需要をまかなうことは不可能である。少量物流を活用し、木材生産地と消費地を適切に結ぶことで首都圏の木造住宅需要に応え、林業活性化・木材資源の再生産が可能となる。本計画では遠野(岩手県)と連携した。遠野材活用には、遠野HOPE計画(昭和60年)で策定された「遠野住宅」(平成5年)における北上山系の造林体系(スギ:50%、唐松:25%、赤松・広葉樹25%)を踏まえた部材構成を元に、構造材、羽柄材、造作材、板材等の樹種と比率を決定した。
5. 地域の活性化：林産地(岩手県遠野)の林業と木材加工産業の活性化と同時に、首都圏における作業場を持たない工務店の大工技術の向上、地場の左官・板金・建具など、既製品に頼らない職人技術の向上及び活性化を意図した。
6. 気候風土に関する工夫：関東以西のIV地域住宅の一般解を目指して、上記III地域の「遠野住宅」の断熱仕様はそのまま、外壁面・屋根面・開口部の遮熱仕様及び棟換気システムを付加している。これに加え首都圏の狭小敷地を考慮した深めの庇、吹き抜けの活用、通風重視の平断面計画により、エアコンに頼らず快適な室内環境づくりを目指した。
7. 長持ちするすまいづくり：長持ちする住まいの基本は、住まい手の愛着とそれにもとづく維持管理にある。そのため、事前に説明会を開催し、住まいの特徴や木材の特性、手入れの仕方などの理解を深めた。その上で、水回りの維持管理し易いコアへの集約、D1特定樹種の採用、全ての部位の不具合が確認しやすい構成(真壁構成+床下点検口)採用した。
8. 街なみづくり：建物の基本構成に「主屋+下屋」構成を採用し、敷地に応じた下屋の配置及び形態により、隣地相互の日照通風を向上させ、通りの表情に変化を生んでいる。また、街路と連続感のある駐車スペースや前庭など「公」と「私」の「中間領域」を外構計画に取り入れ、広がり感のあるまちなみを実現している。

別添1 建築概要

区画	5-22区画	5-23区画	8-1区画	8-2区画
スケルトン	Bタイプ	Bタイプ	Bタイプ	Bタイプ
敷地面積 m <sup>2</sup>	169.11	169.39	170.18	167.05
建築面積 m <sup>2</sup>	78.23	74.92	78.23	74.92
延べ床面積 m <sup>2</sup>	132.49	131.66	128.35	134.97
形状	南切妻・北寄棟	南切妻・北寄棟	南切妻・北寄棟	南切妻・北寄棟
階数	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建+下屋

  

区画	18-5区画	18-6区画	18-7区画	18-8区画	18-9区画
スケルトン	Cタイプ	Bタイプ	Bタイプ	Bタイプ	Bタイプ
敷地面積 m <sup>2</sup>	158.66	177.95	174.03	183.50	190.78
建築面積 m <sup>2</sup>	66.94	83.03	79.72	83.03	79.72
延べ床面積 m <sup>2</sup>	111.79	139.11	134.97	132.49	125.86
形状	切妻	南切妻・北寄棟	南切妻・北寄棟	南切妻・北寄棟	南切妻・北寄棟
階数	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建+下屋

  

区画	20-1区画	20-2区画	20-3区画	20-4区画	20-5区画	20-6区画	20-7区画	20-8区画
スケルトン	Aタイプ	Bタイプ	Aタイプ	Aタイプ	Aタイプ	Bタイプ	A-2タイプ	Aタイプ
敷地面積 m <sup>2</sup>	166.23	171.56	175.88	171.12	191.71	198.03	169.30	169.28
建築面積 m <sup>2</sup>	80.51	87.07	80.51	80.51	80.51	87.07	74.03	80.51
延べ床面積 m <sup>2</sup>	130.83	141.60	130.83	130.83	134.15	141.60	125.17	134.15
形状	切妻	寄棟	切妻	切妻	切妻	寄棟	切妻	切妻
階数	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建	2階建+下屋

  

区画	19-2街区	19-3街区	19-9街区
スケルトン	A-2タイプ	A-2タイプ	Bタイプ
敷地面積 m <sup>2</sup>	169.24	169.25	169.25
建築面積 m <sup>2</sup>	72.86	73.71	83.23
延べ床面積 m <sup>2</sup>	125.87	123.58	138.29
形状	方形	南切妻・北寄棟	南切妻・北寄棟
階数	2階建	2階建	2階建+下屋

  

区画	19-4街区	19-5街区	19-6街区	19-7街区	19-8街区
スケルトン	A-2タイプ	A-2タイプ	Bタイプ	Bタイプ	Bタイプ
敷地面積 m <sup>2</sup>	167.06	167.06	169.26	169.24	169.25
建築面積 m <sup>2</sup>	72.91	72.86	83.23	83.23	83.23
延べ床面積 m <sup>2</sup>	123.58	125.87	138.29	132.49	138.29
形状・2階	南切妻・北寄棟	方形	南切妻・北寄棟	南切妻・北寄棟	南切妻・北寄棟
道路・宅地	2階建	2階建	2階建+下屋	2階建+下屋	2階建+下屋

別添2-1 写真1 タイトル:「木の香る家」区画の街なみ



▲ 2期・3期・4期の異なるスケルトンタイプによる街なみ。道路沿いは中間領域として広がりを演出。



▼ 3期、街角タイプの住戸。生け垣は道路からセットバックさせ、北側に下屋を配して北住戸に配慮

別添2-2 写真2 タイトル:「木の香る家」外観



▲ 北宅地の通風・日照に配慮し向かい合わせに配置した下屋。隣棟間に距離を生ませ自身も明るい。外壁下部はガルバリウム鋼板、上部は漆喰塗り。準防火であるが軒は厚板を扱い準耐火を満足。



◀ フットパス沿いに、緑のポリウムを、宅地側でも演出。

別添2-3 写真3 タイトル:「木の香る家」内観1



▲ 居間の上部が吹抜となっているタイプ。内部は珪藻土塗りの真壁で、通し柱・5寸角・梁・4寸×8寸。和室の換気はガラス欄干で内部空間の連続感。吹抜部の窓を開閉する椅子状キャットウォーク。  
▼ 対面型キッチンタイプの居間食堂、連続するデッキのベンチが見える。カウンターは赤松厚40(無垢)、床は唐松厚15(無垢)、天井は2階の珪藻土厚40(無垢)の現し。



別添2-4 写真4 タイトル:「木の香る家」内観2



▲ ワンルームタイプの住戸1階部分。写真左に見えるカウンター奥がキッチン。水回りのコア部がよく分かる。  
▼ 玄関上部の吹抜。左に見える下駄箱は、赤松無垢材の大工工事。扉はスギ合板にスギの引き手。  
▼ 2階ホール部分は、明るさと広さを確保。天井は、野地板杉厚30の現し。野地板の上に断熱材及び通気層を確保し瓦葺き。



別添2-5 写真5 タイトル:「木の香る家」建て方



▲ 木材は、遠野の住宅建設協会の作業場で、手刻み(ルーターやホゾ取機)によって行われる。木材の使用量は、1.2㎡/坪で40坪の住宅で約50㎡となる。構造材・羽柄材・板材・壁・天井は10t車3台で順序よく東村山に運ばれ、地場工務店の大工により組み立てられる。1期では、遠野の刻んだ大工が建て方まで指導として付き合ったが、2期以降は地場大工のみでスムーズに進行した。特に建て方の期間中は、地域の工務店の見学が殺到し、人だかりができるほどであった。